

令和8年度 中学校保健体育部会研究計画

I 研究主題

生きる力を育てる創造的な保健体育学習の在り方

～ 豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てるために ～

II 研究目的

1. 研究経過

石教研の基本目標である「主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てる教育の確立」を受け、昭和45年から2ヵ年を単位として研究を推進してきた。

途中省略 第14次より小中分離

- ・ 第25次 「主体的・対話的で深い学びが達成できる課題解決学習の工夫」
「教育機器を活用した指導方法の工夫」
- ・ 第26次 「主体的・対話的で深い学びが達成できる課題解決学習の工夫」
「深い学びを引き出すための指導方法の工夫」
- ・ 第27次 「する楽しさ、見る楽しさ、支える楽しさ、知る楽しさを実感できる学習の工夫」
「深い学びを引き出すための指導方法の工夫」
- ・ 第28次 「する楽しさ、見る楽しさ、支える楽しさ、知る楽しさを調整し、最適に学べる授業の工夫」
「個別最適な学びと協働的な学びの指導方法の工夫」

2. 主題設定の理由

石教研の基本目標にあるように主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てるには、生きる主体として自らを捉え、自己の個性を創り出し、豊かな社会の形成者となる資質を身に付けさせることが必要である。部会では「生きる力を育てる創造的な保健体育学習の在り方」を主題に研究を進めてきた。

第24次研究では、器械運動における課題解決型の授業の中で、映像教材等を含む教育機器を活用した授業を展開することで、生徒が「わかる・できる」楽しさを感じたり、互いに教え学びあったりする学習活動へと発展させていくことができた。

第25次研究では、自分たちの動きを撮影し、映像を見ながら話し合いで課題解決を図り、実践につなげることが、主体的・対話的な深い学びにつながっており、生徒が「喜びや達成感」を味わえる学習へと発展させることができた。

第 26 次研究では、新学習指導要領の完全実施にともない、「対話による課題解決に向けた考え方を身に付ける」とともに「他教科や他領域と関連付けて考える力を養う」ことができた。

第 27 次研究では、生徒が主体的に取り組みながら自他の課題を発見することができる指導の工夫を実践し、「合理的な解決に向けて思考判断する」とともに「他者に伝える力を養う」ことができる学習へと発展させることができた。

第 28 次研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じて、生徒一人ひとりが確かな知識や技能を身に付け、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考判断する力を養うことが目標となる。

学習指導要領の教科目標に示された「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てるために」を副主題に設定し、研究を充実・発展させていくことが研究主題や部会目標の達成につながると考え、主題を設定した。

3. 仮説

仮説 自己や仲間の適正等に応じた「する・見る・支える・知る」の多様な関わりを生徒自身が主体となり、個別最適な学び・協働的な学びの場を実態に応じて調整を図りながら運動に取り組むことで、より運動の楽しさを実感する生徒を育成できるだろう。

III 研究内容

第 28 次研究(令和 7 年～8 年の 2 年継続)の 2 年目として、研究の主たる領域等を限定せず、深い学びを引き出すために指導方法の工夫に絞って研究を進める。学習内容の確実な定着を目指した指導の個別化や学習を深め広げるための学習の個性化を図りたいと考える。する楽しさ、見る楽しさ、支える楽しさ、知る楽しさを個別最適な学びを通して能動的な学習から自ら実態に応じて主体的に学習し、研究主題である豊かなスポーツライフの実現のための資質・能力を育みたいと考える。また、他者との関わりを通して、異なる考えを交換し合うなどの協働的な学びを充実することを柱として、研究仮説から研究内容をより具体的にして研究を深めたいと考える。

また、市町村部会研究との関わりをおさえ、できるだけ同一課題をもって取り組むことも継続する。さらに、保体(小)部会との連携を図りながら進めていきたい。

体力向上の取組については、現状を踏まえた課題に対するその実践方法や効果について交流を深めていきたい。

具体的研究内容

- ◎する楽しさ、見る楽しさ、支える楽しさ、知る楽しさを実感できる学習の工夫
(主体的な学びを引き出すグループ活動や言語活動)
- ◎個別最適な学びと協働的な学びの指導方法の工夫
(ICTの活用など指導の個別化、学習内容の提供など学習の個性化、評価方法等)
- ◎体力向上に向けた実践の交流と検証
(発達段階に合わせた補強運動、小中学校の連携など)

IV 研究方法

1. 研究を進める上で

- ① 市町村部会においては、管内の研究内容を検討し、できるだけ同一内容で研究を推進し、学校ごとに実践を進める。
- ② 市町村部会の研究計画を作成し、さらに推進委員研修会において取り組む内容の共通理解を深めながら、研究の視点を明確なものにする。
- ③ 保体(小)部会との連携を図り、指導内容の連携や実技研修などを積極的に取り入れていく。

2. 実践の充実を図るため

- ① 各市町村の活動状況の紹介・交流と管内研究の共通理解のために、部会情報「GOAL」を発行する。
- ② 研究推進の強化を図るために、研究中心市町村部会と中心校を定め、第二次研究協議会において授業公開と研究仮説・内容に基づいた研究協議を行う。
- ③ 各校の実践記録を「保健体育科資料集 第48集」として編集する。

V 研究組織

1. 石教研専門部会に所属する。
2. 役員は、部長1名、副部長1名、事務局長1名、事務局次長1名、研究員1名、教育課程研究委員3名とする。
3. 市町村部会では、研究推進委員1名を選出する。
4. 市町村部会は、千歳、恵庭、北広島、江別、当別・新篠津、石狩とする。

VI 年間計画

月	各種研修会・その他	内 容
4	○専門部会第一次研究協議会 ○推進委員研修会 ○市町村第一次研究協議会	○役員決定 ○部会構成 ○石教研研究計画検討 ○市町村研究計画決定
5	○部会情報発行 ○部会役員研修会 ○教育課程研究委員研修会 ○推進委員研修会	○市町村研究計画の紹介 ○市町村研究計画の交流 ○研究計画の具体化
6	○推進委員研修会 ○部会役員研修会	
7	○部会役員研修会 ○推進委員研修会 ○部会情報発行	○第二次研究協議会に向けて ○市町村研究状況の交流
9	○市町村第二次研究協議会 ○部会役員研修会 ○推進委員研修会 ○部会情報発行	○市町村研究の中間のまとめ ○第二次研究協議会に向けて ○各校研究実践のまとめ（レポート丁合いなど）
10	○第二次研究協議会事前研修会 ○専門部会第二次研究協議会開催 ○部会情報発行	○部会討議の進め方 ○授業研究と実践交流
11	○部会役員研修会 ○理論・実技研修会	○第28次研究（2年目）のまとめ作成・検討 ○次年度研究計画の方向性検討
1	○部会役員研修会	○第29次研究計画（1年次目）の立案・検討
2	○市町村第三次研究協議会	○第29次研究計画（1年次目）の検討・修正・決定・提出

（文責 佐々木 智章）